

## 複合一貫輸送 (フェリー・RORO船)

### 複合一貫輸送とは

複合一貫輸送とは、船舶・鉄道・トラック等の種類の異なる2つ以上の輸送手段を用いて、単一運送人の一元的な管理の下で輸送する運送形態です。例えば、陸域をトラックで輸送し、トラックごとフェリーに載せて海上輸送するような形態となります。複合一貫輸送において、フェリー・RORO船は陸海の交通をシームレスにつなげる役割を担っています。

### フェリー・RORO船の基礎知識

フェリーは自動車航送船とも呼ばれ、一般的に海上運送法による免許又は許可を受けて自動車航送を行い、13名以上の旅客定員を有する船舶を指します。

RORO船は一般的に、海上運送法及び内航海運業法に基づく届出をし、貨物又は12名以下の旅客の運送をする船舶のうち、貨物をトラック等で積み降ろす(Roll-on・Roll-off)のために船尾や船側にゲートを有する船舶を指します。

フェリー・RORO船ともに車両が直接乗り入れて荷役することができる点は共通ですが、フェリーは貨物だけではなく旅客も運送できるため、トラックドライバーや一般客の移動手段としても利用されています。RORO船は基本的にドライバーは乗船せず港までの輸送のみを行い、船社等がトラック・シャーシ

等を目的港まで輸送します。基本的に、フェリーは旅客船、RORO船は貨物船という位置づけですが、近年ではフェリーでも無人航送が行われるなど、これらの役割上の違いはなくなってきました。

近年トラックドライバー不足や過重労働が深刻化する中、ドライバーの労働時間の短縮や休息時間の確保が可能なフェリー・RORO船は、有効な代替手段として注目されています。

また、フェリー・RORO船は港湾側に荷役機械を必要としないため、災害時に荷役機械に被害を受けた場合においても迅速に復旧することが可能です。昨年の7月豪雨や9月の北海道胆振東部地震の際には、高速道路、鉄道及び空港の機能が停止する中、緊急輸送手段として活躍しました。

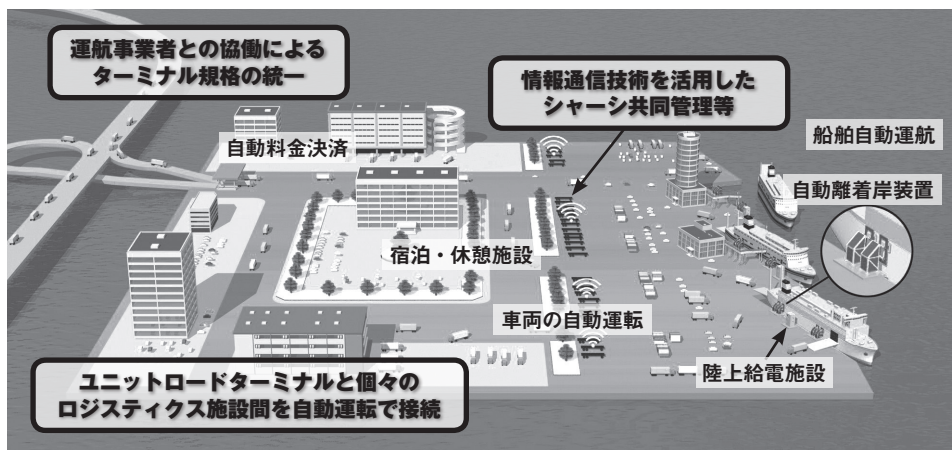
近年では、新規フェリー・RORO航路の就航も進んでおり、昨年6月には室蘭～宮古間フェリー航路が、今年4月には博多～敦賀間RORO航路が就航しました。また、船舶の大型化も進んでおり、複合一貫輸送の更なる普及が期待されます。



RORO船の荷役

### 次世代高規格ユニットロードターミナル

こうした中、2030年を見据えた港湾の中長期政策「PORT2030」において、海上輸送の安全性・効率性の向上を図るため、「次世代高規格ユニットロードターミナル」の構築を位置づけました。これは、内航フェリー・RORO船による、シームレス輸送の効率化のため、情報通信技術を活用して料金決済やシャーシ管理等を効率化するとともに、自動化技術などを実装したターミナルです。情報通信技術や自動化技術を効果的に活用することにより、物流コストの低減やリードタイムの短縮を図るとともに、モーダルシフトを促進することにより、ドライバー不足等の国内物流に対する陸上輸送の逼迫感を軽減できます。



次世代高規格ユニットロードターミナル